

見附市学校施設長寿命化計画 概要版



学校施設を長寿命化するってどういうこと？

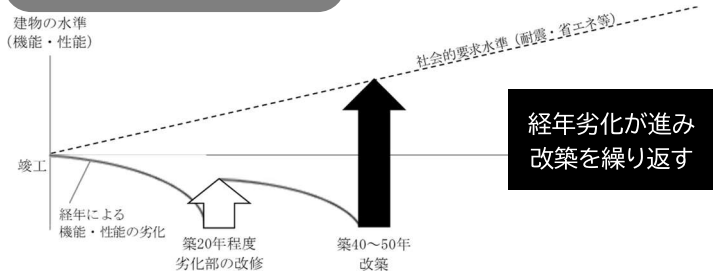
これまで、学校施設は築50年程度で「改築」していましたが、計画的に「改修」を行い、築後90年以上の長期間の使用を目指します。

長寿命化計画を立てると、どんないいことがあるの？

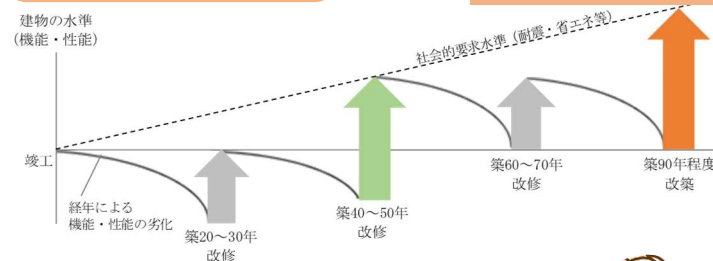


これまでの壊れたら直す「事後保全型」の管理から、計画的に補修、メンテナンスしていく「予防保全型」の管理に切り替えることで、学校施設の機能・性能を維持、向上しつつ、安心・安全・快適な教育環境を確保し、コスト縮減と財政負担の平準化を図ります。また、本計画を策定することで、より有利な条件で国からの改修経費の支援を受けられます。

これまで(事後保全型)



これから(予防保全型)



何年間分の計画を作るの？



見附市では、令和2年～31年の30年間の計画とします。原則6年ごとに更新していきます。



どの学校施設を対象にするの？

全小・中・特別支援学校13校と給食センター、合計14施設を対象とします。



見附市の学校は古くなっているの？

築年別整備面積

築40年以上	築30~40年	築20~30年	築10~20年
21% (1.6万㎡)	28% (2.2万㎡)	28% (2.2万㎡)	17% (1.3万㎡)

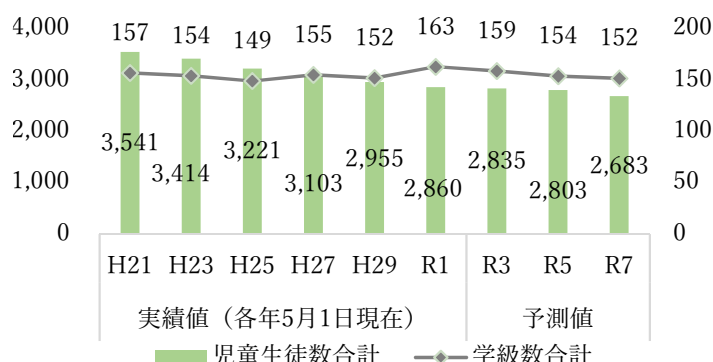
築10年未満 6%(0.5万㎡)

学校施設・設備は、年を経るにしたがって機能・性能の低下が進んでいます。

今後、老朽化した学校施設の修繕や改築に多額の費用が必要になると考えられ、学校施設の適正な維持管理について検討が必要です。



子どもの数の見通しは？



資料：学校教育課より

児童生徒数は減少傾向が続いています。加えて、令和3年度以降は学級数もゆるやかに減少していくものと予測されています。

小規模校はどうなるの？



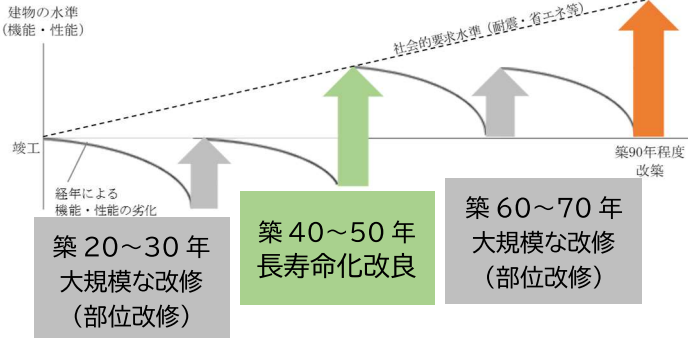
児童生徒数100人未満の小規模校（見附第二小、田井小、新潟小、上北谷小）については5年後もほぼ現状の児童数が維持されることから、ただちに学校規模・配置の方針を定める必要はないと考えます。しかしながら、将来の児童生徒数の減少を見据え、情報収集し、対策を検討していきます。



どの時期に、どんな工事をするの？

目標耐用年数と改修周期

築90年以上の長寿命化を目指す



大規模な改修工事(または部位を限定した改修)

経年による機能・性能の劣化を回復



屋上、屋根、外壁 (部位改修では優先的に改修)



内部仕上げ 電気設備 機械設備

長寿命化改良工事

経年劣化の回復、建物の耐久性向上、教育環境改善



構造躯体の劣化防止 構造躯体の耐久性向上 ライフラインの更新



時代に合わせた教育環境の整備 トイレ改修、少人数教室、LED化等

工事の優先順位は？



長寿命化改良工事は、築年数順を原則とします。

(劣化状況調査の結果による調整あり)

(基準年：令和元年)

学校名	築年数	学校名	築年数
見附小	26年	見附中	30年
第二小	38年	南中	41年
名木野小	45年	今町中	43/31年
田井小	26年	西中	33年
葛巻小	20年	特別支援学校	17年
新潟小	23年	給食センター	1年
上北谷小	17年		
今町小	10年		



具体的な工事の計画は？

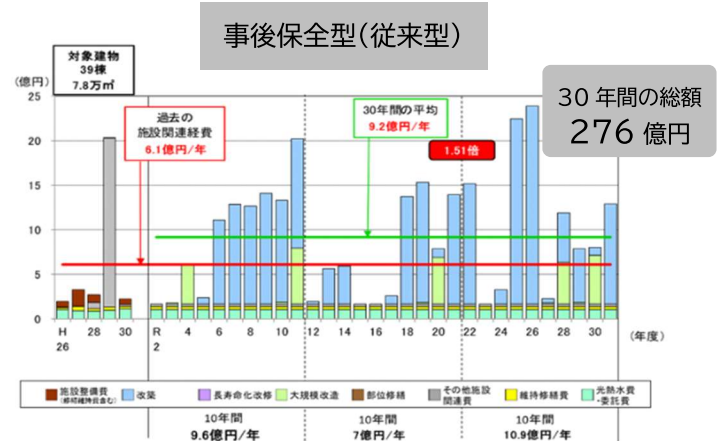
年度	長寿命化改良	大規模改修	部位改修	費用計
R2				
R3				
R4			田井小学校 屋上・外壁 0.50億円	0.50億円
R5	名木野小学校 実施設計 0.45億円			0.45億円
R6	名木野小学校 工事着工 6.55億円		見附小学校 屋上・外壁・空調 2.00億円	8.55億円
R7	名木野小学校 工事完了 7.44億円			7.44億円

合計 16.94億円

※6年毎の定期見直しのほか、様々な要因の変動に応じて随時、見直しを行い、最適化を図っていきます。また、改修実施にあたっては、市の財政計画等に配慮しつつ、内容を精査のうえ弾力的に対応していきます。



どれくらいのコスト削減になるの？



今後30年間で約69億円(約25%)コストを削減できる

